

Lab News

テーマ“自動血球計数装置 (ADVIA2120i) で測定される %LUC の有用性”

%LUC とは

Large Unstained Cell の略で、自動血球計数装置(ADVIA2120i)で測定されるペルオキシダーゼ陰性大型細胞のことであり、白丸の領域にプロットされる(図 1)。“%LUC ピーク”とは、PBSCH を目的とする症例において、時系列データに“一過性に %LUC10%以上を示す”ことと定義した。今回、%LUC ピークを認めた Y 群と認めなかった N 群に分け、末梢血幹細胞採取量、採取回数、採取時の WBC 数を比較した。

末梢血幹細胞採取量は Y 群で $3,322 \pm 1,721 / \mu\text{L}$ 、N 群で $381 \pm 77 / \mu\text{L}$ であり、Y 群は N 群に比し、有意に末梢血幹細胞採取量が多かった(図 2)。Y 群は WBC 数が $5,000 / \mu\text{L}$ 未満の症例でも 1~2 回で十分量の末梢血幹細胞を採取可能であった。N 群の WBC 数は約 $50,000 / \mu\text{L}$ と極めて高値であったが、3 回の採取で十分量の末梢血幹細胞を採取できない症例もみられた。

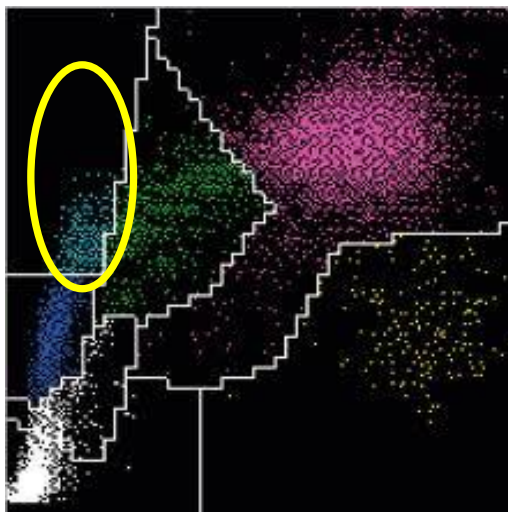


図 1: ADVIA2120i PEROX ch

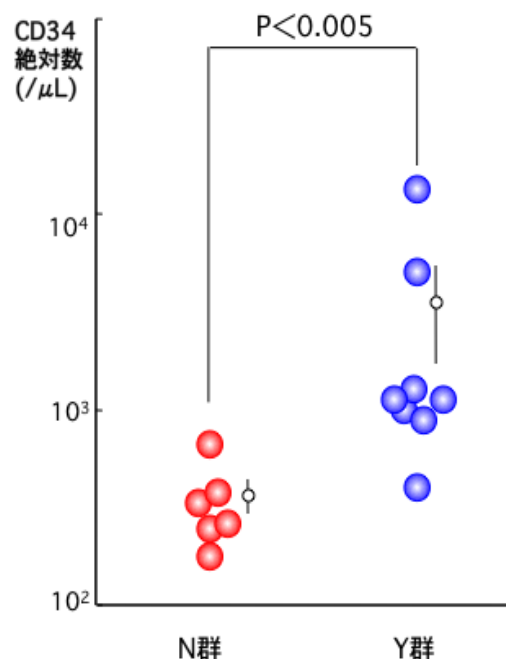


図 2: %LUC ピークの有無による末梢血幹細胞採取量

<まとめ>

%LUC ピークの観察は、末梢血幹細胞採取において採取量予測や採取時期決定に有用であり、効果的な PBSCH の指標として、患者や医療スタッフの負担軽減にもなると思われた。